

実施日：6月30日（2校時）	
教科等：特別の教科 道徳	
取組名：インターネットの情報に流されずに相手の気持ちを考えて話そう （資料「何であかんのやろ」小学校低学年用人権教育資料『ほほえみ』令和3年度版）	
対 象：2年生	実施場所：教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネット端末から知る情報の中には、相手を傷つけるような不適切な言葉があることに気付くことができる。 何気なく言った言葉が人を傷つけてしまうことを知り、言葉で誰かを傷つけないように、人の気持ちを考えて行動することの大切さに気付くことができる。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> インターネット上で初めて知った言葉について質問し、ネット上の言葉について関心を高める。 教材文を読み、どうして先生ははるかさんのことを強く注意したのかについて考え、話し合わせる。 先生に注意されているのに、素直になれずに言い返すはるかの気持ちについて考え、話し合わせる。 はるかの気持ちがどうして晴れていくような気がしたのかについて考え、話し合わせる。 今日の学習についてのふり返りを書き、友だち同士で交流させる。 	
ウ 連携先：家庭、地域	
<p>エ 連携にむけての取組</p> <p>地区別懇談会において、学校から伝える「夏休みのくらし」の内容に、インターネットの利用についての項目を入れ、保護者に対して「自分も人も大切に使うインターネットの使い方」について啓発を行う。</p>	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権朝会でインターネット上での人権侵害について、具体的な例を示しながら伝え、自分も人も大切に使うインターネットの使い方について児童自身に考えさせ、意見を交流する機会をもつ。 家庭での「インターネットのやくそく」について、児童会を中心に利用する時の注意点について話し合いをさせた。インターネットで発信する時には、自分も相手も傷つけないようにすることについてプリントに記述し、全校生に配布することで啓発を行った。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート ・ 発表 	
<p>キ 成果</p> <p>インターネットで知った言葉の中には、相手の気持ちを傷つけるような言葉もあることに気付き、友だちに使ってもよい言葉なのかを考えてから話すことの大切さについて話し合うことができた。</p>	
<p>ク 課題</p> <p>インターネット上の人権侵害についての理解は深まったが、現実の学校生活の中では自分の気持ちをコントロールできずに、イライラした気持ちをそのまま出して相手を傷つけてしまう児童もいる。児童が落ち着いて安心な生活をするために、自尊感情や自己肯定感を高める取組を合わせて行うことが必要である。</p>	